

# 平成30年度 校内研究アンケート

～次年度の研究のスタートに向けて、今年度の研究の振り返り～

## 1 研究テーマ・サブテーマとその設定の理由について適切であったか。

進んで考え 豊かに表現する子どもの育成  
～外国語教育における言語活動を通して～

- 良い（6）
  - 今必要としているテーマなので、とてもよかった。
  - 本校のめざす児童の具体目標に合致し、新指導要領の改訂に伴う必要不可欠な研究テーマ、サブテーマだった。
  - テーマはそのまま、サブテーマだけ変更したもので、よかった。
  - 昨年度までの研究の流れを外国語教育の中にも生かしていくというテーマ設定は無理がなくてよかったと思う。
  - 主テーマの継続という点では、研究が進めやすかった。  
また、サブテーマでしぼったことで、内容が喫緊の教育課題であったので、取組が明確化された。
  - 昨年度と継続しながらも、外国語教育に関するテーマが分かりやすく伝わっていたと思います。
  - 学習指導要領に沿っており、適切であったと思います。
  - 社会のグローバル化に対応するために必要な能力を育成するため、テーマとして適切である。
  - 「豊かに表現する」というと、とても大きなテーマとを感じるが、サブテーマや目指す子ども像が具体化されていることで、取組が明確になったので、よかったと思う。
- ▲「豊かに表現する」について年度当初に議論があったが、来年度は全国へ向けて発信するならば、意図がよりわかるようにしたらいいと思う。

～研究テーマ・サブテーマについて～

新学習指導要領の趣旨や、本校の児童に求められているものを踏まえて設定したテーマであり、概ね適切であるという意見が多く寄せられた。

外国語教育における言語活動の捉え方を「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動とし、コミュニケーションを図る素地、基礎となる資質・能力を育成する上で核とされている。来年度もこのテーマ、サブテーマを継続し、本校児童を長期的な視野に立ち、育てていくのが良いのではないか。

「豊かに表現する」というテーマに関しては、外国語教育における「豊かな表現」の捉え方を示したが、来年度は再度その部分を確認してからのスタートとするとよいと思う。

## 2 研究の目標についてどうであったか。

外国語教育における言語活動を仕組むことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする(進んで考え、表現しようとする)児童を育む授業の在り方を明らかにする。

○良い(8)

○授業で取り入れる3つの視点が明確で分かりやすく適切だった。

○英語をつかってコミュニケーションを取りたいという気持ちは、多くの子どもが持っているが、言語の習得や表現方法の理解が必要になってくる。研究の目標としては適切だったと思う。

○言語活動を活発にすることで児童の中に主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識が高まったり、行動が増えたりしたように感じた。

○あまりにも初年度ということで、広めてしまうとやることがコミュニケーションという点に絞られたことがよかった。

○主体的にコミュニケーションを図れる教材設定が、児童の実態に応じ工夫できていたと思います。

○外国語はツールの一つの選択肢として、言語活動の中で主体的にコミュニケーションを図ろうとすることは適当である。

○外国語教育を行う上で大切なコミュニケーションに目標をしばったことで、授業を行う上でも的を絞りやすかった。

▲今年度は、外国語活動の専門用語にも徐々に慣れてきた。「言語活動を仕組む」をアクティビティなどの専門用語と絡めれば、より研究目標が具体化されると思う。

～目標について～

概ね「良い」という意見が多く寄せられた。

最終目標は、思考力・判断力・表現力等の育成である。児童がいかに思考し、思考したことを表現しようとするか(思考したことを、相手に伝えようとするか)、要するにいかにもコミュニケーションを図ろうとするかがポイントである。そのために「外国語教育における言語活動」という意味を理解し、どのように言語活動を仕組んでいくかを意識しながら、授業づくりを進めることが大切になる。そして、言語活動の目的や場面、状況を明確にし、必然性のあるコミュニケーション活動の設定を行っていきたい。

コミュニケーションを図るにあたり、言語の習得や表現方法の理解の必要性など技術的な面での課題も挙げられるので、来年度は「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の扱いやバランス等も意識した研究が必要になってくると思われる。

### 3 目指す子ども像と育てたい力とその手立てとしての研究の視点はどうかであったか。

#### 目指す子ども像と育てたい力

##### 言語活動を通して

- 外国語に慣れ親しみ，様々な活動に興味関心を持てる子ども（主体的に学ぶ力）
- 人とコミュニケーションを図り，学び合う子ども（相手意識を持ち，人と関わり学び合う力）
- 自分の思いを伝えられ，達成感を感じられる子ども（自己実現しようとする力）

#### 研究の視点(目指す子どもに近づくための手立て)

- ①児童の興味・関心のある題材の設定
- ②単元におけるゴールの明確化
- ③聞く・話す必然のある活動
- ④相手意識，目的意識を持たせるコミュニケーション
- ⑤楽しさを体験し，やり遂げる達成感を持てる取組
- ⑥外国語を使ってみたくなる教材の作成と活用の仕方
- ⑦授業の流れのパターン化

- 適切であった（８）
- 育てたい力，研究の視点ともに妥当だった。
- 7つの研究の視点が「目指す子ども像」に近づくための手立てとして有効だったと感じられた。
- 研究の視点が明確に示してあり，大変にわかりやすくよかった。
- 研究の視点が，目指す子ども像に直接的に結びついていたと思います。
- 手立てがいくつかあったため，すべてに取り組むというのではなく，選択して取り組めた。
- 視点全部は無理だが，取り組む目標として列挙してあったことはよかった。また，どれかについて取り組もうとする確認があったので，今年度は，よかった。来年度以降は，これを深めていく，または，どこまでできていて，あとどれをすればいいかを見極めていく必要がある。
- 研究授業を参観させていただく際に視点が明確であったので分かりやすかったです。
- 指導主事を招聘したことにより，理論研究だけでなく具体的な授業の実践例まで示していただけたことがとてもよかった。
- 2本の授業研究を提案していただいたことは，次のステップに進むうえで重要だった。形が見えてきたように思う。
- ⑦について 来年度も指導案通りに流すことを割り切って行いたい。
- 外国語の言語活動として3つの育てたい力があり，それに近づくための手立てが，明確に示されていた。それを授業の中に全て取り入れるのではなく，「今回の授業は，この視点を目指して授業を仕組もう」と計画を立てる際の指標になり，有り難かった。
- ▲育てたい力の「自分の思いを伝えられ」は，研究テーマの『豊かに表現する』と共に，意図することがわかるように表現を変えるといいと思う。

～目指す子ども像と研究の視点について～

目指す子ども像と目指す子ども像に近づくための手立てとしての研究の視点は、共に、概ね「良い」という意見が多かった。

2本の研究授業により、それらの手立ての具体が見えてきたように感じる。目的や場面、状況を意識した言語活動を始め、様々な手立てにより、児童が生き生きとコミュニケーション活動を行っている様子が見て取れた。7つの視点の中でも、重点的に行うことを絞って提示された授業だったため、参観している方も視点を絞って見ることができた。一方、これら2本の授業を参観して感じたことは、確かに全ての視点を重点的に行う必要はないが、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする授業づくりをしようとする、必然的に全ての視点が必要になってくるということだ。7つの視点のどれかが欠けても、今回のような生き生きとした授業にはならないのではないか。

これらの視点を正しい方向で扱えるのは、担任の強みだということも痛感した。目の前の児童がどんなことに興味を持ち、どんな工夫をすればより効果的かなど、学級担任の強みである児童理解に基づいた学習を展開できることがわかった。

授業のパターン化については、学習の流れやALTとの役割分担を含めたマニュアルを活用し、よりよいものに修正しながら、本校なりのスタイルを確立していけたらよいと思う。

来年度も、いくつかの的を絞りながら、授業づくりをしていけばよいと思うが、7つの視点全てを意識することは必要だと感じる。どのように深めていくか、については、来年度の初めに検討、確認が必要である。

#### 4 研究の方法はどうであったか。

①学習会の実施：指導主事を招聘し、理論研究の場としたり、授業実践の在り方などについて学んだりする。

②全体研究会：研究の方向性や各ブロックの内容を共有する。

③ブロック研究会：外国語活動ブロックと外国語科\*ブロックに分かれ研究を進める。

授業のパターンや児童の見取り、ワークシート・評価、環境・掲示などについても検討していく。

全面実施までには全単元の教材を揃えられるようにする。

④授業実践：「やってみて」「慣れて」「課題を見つける」ことを目標に全職員が実践する。

低学年は日常的に、慣れ親しめる機会を設けていく。

⑤研究授業：各ブロック1本、研究授業をうつ。

⑥実技研修：ICTのスムーズな活用を通して、新教材の扱いに慣れる。

○適切だった(4)

①学習会の実施について

○指導主事の先生のお話によって授業の実際の方向性が見えてきて有効だった。

○指導主事の先生による実践的なご指導がありがたかった。

### ②③全体研究会・ブロック研究会について

○階段に掲示した英単語により，児童の英語への関心が高まったと思う。

○自分自身が勉強不足なため，段階を追った研究内容が大変にわかりやすく，とても勉強になった。

○全面実施に向けての方向が決まり，少しずつ進めていくことができました。継続していくことで，さらに整ってくると思います。

○今年度は，来年度の公開や2年後実施の新指導要領にむけて方向性をつかむ研究だったが，授業研究や理論研究を通して，外国語科や外国語活動がイメージできるようになったことは大きな収穫だった。

▲授業にかかわっていないこともあるだろうが，時間的にも，ブロックでの話し合いがなかなか深められなかった。

▲新しい教科なので，研究主任主導で理論研究や模擬授業等で，いろいろな活動の意味付けを行っていくと全体としての研究の基礎ができたように思う。そのうえで深まりも出てくるように感じた。

### ③授業実践について

○試行錯誤しながらの研究であるが，職員が学んだことを実践に生かすための方法として有効であった。

○今年度は，とにかく「やってみる」ことしかできなかつたと思う。全校が，F E T 主導の授業から，担任が中心となる授業を毎時間行うことを目標に行えたのは，これからの研究の深まりにつながると思う。また，坂本先生に授業観察をしていただき，コメントをいただいたのはとてもありがたかった。来年度は，可能な限り，全校の先生の授業を見合うことができるとさらに授業力が高まると感じる。

○低学年も毎週水曜日のおはようタイムに，身近な英語を取り入れたゲームを行ったり，朝の健康観察を英語で言ってみたりする中で，英語への興味関心が高まった。

▲低学年では，外国語活動へつなげる活動をする必要があるのか，あるとしたら何をどの程度，めざすところは・・・など相川小の方向性を明確にしていく必要がある。

### ④研究授業について

○研究授業を通して，色々と勉強させていただき参考になりました。

○研究授業への取組を通して，外国語活動の指導が具体的な姿として理解することが出来ました。

### ⑤実技研修について

▲デジタル教科書は教室 PC では反応が遅すぎる。職員校務 PC のタブレットで対応した。来年度は，職員室にタブレットを1つ外国語専用置いておき，授業の際に教室に持っていくことができるようにしたい。

▲I C T のスムーズな活用については，積極的に研修を行うことができなかつた。

～研究の方法について～

今年度は、「やってみる」「慣れる」「課題を見つける」を第一に実践した年であった。講師を招いての理論研究や学習会やブロックごとの研究や研究授業は大きな成果と言えると思う。今後の研究につながるものとして、勉強になったという意見が多かった。

「課題を見つける」ところを出発点として、見つかった課題から少しでも研究が深まり、今年度なりの成果となればと考えていた。今年度は、研究授業を通し、前述した ALT との役割分担や、授業の流れの提示の仕方、コミュニケーション時における 3 つのポイントなど、学校全体で共通理解したい内容が浮き彫りになった。たたき台をもとに各ブロックで話し合うことで、考え方が確認でき、理解を深めることができた。話し合った内容を、来年度の授業の中で実践し、児童が主体的にコミュニケーションを図ることができるようにしていきたい。

内容が多くなった新教材は、今まで以上に扱う表現例や語彙が増えたり、Small Talk や Story Time などこれまでにない活動があったりするため、それら一つ一つの活動の特徴を知り、効果的な指導を考えていく必要がある。今年度は、一つ一つの活動にスポットを当てることができなかつたので、来年度は、今年度の反省を生かして、意味づけをしっかりと行い活用していけるようにする必要がある。

低学年でもおはようタイムを活用して、活動を行った。水曜日を楽しみにしている児童も多い。意図としては、年度初めにお話ししたとおり、校内研で外国語を取り組むに当たり、やはり実践あってのものとしたいという思いがあることと、いつ授業をすることになるかわからない事を考え、Classroom English に慣れておいた方がいいのではないかという、教師側の理由が主なものであった。教育課程に位置づけられていない低学年が活動することについて、実際に実践している学校や、指導主事に尋ねたところ、「触れる・慣れる・楽しむ」を目的として、英語への抵抗感軽減を狙うものという事であった。3年生の外国語活動につながる、英語の学習は楽しいものだという意識づけの為の取組として英語に触れておくことがプラスになるということなので、来年度も継続できたら良いと思う。来年度初めに、再度どうしていくか検討すればよいと思う。

パソコンの反応が遅いために不便なデジタル教科書については、English Room を作ることで、解消できるのではないか。English Room 専用のパソコンを一台用意できれば、それをみんなで活用することができる。

## 5 研究組織については、適当であったか。

- 良い（7）
- 誰もが外国語の授業をする立場になるという点で2ブロックに分かれたことは良かった。
- ブロックの数は妥当であると思う。よかったと思います。
- よかったと思います。他ブロックの取組が少し見えづらかったように思いました。
- 本年度は外国語活動・外国語科という2つの部会に分かれて研究を行うことでよかったと思う。ただ、来年度は、環境整備部会等、学校全体に英語を溢れさせることが必要になってくるかもしれない。
- 2ブロックでよかったと思う。来年度は、2ブロックにした上で、環境を整える部会？も兼ねた組織作りも必要かもしれないと思う。（階段・教室の掲示等）

～研究組織について～

今年度は、1年目ということもあり、あまり欲張らず、2つのブロックに分かれ、その中でできることをしていこうということで、このような形を取った。来年度は、今年度より更に充実を図ることを目的とし、2つのブロックのほかに、機能別ブロックを設けることも一つの案として有効ではないかと思う。

## 6 研究の計画・進め方については、どうであったか。

- 適切であった。（8）
- 2度の学習会、ブロックを中心とした授業研という進め方は良かった。
- 授業を提案していただくことで、外国語の流れが見えてきた。
- 前半で学習会によって理論研究を行い、後半に実践を通して研究を深められたのはよかった。
- 指導者からの学習機会を多くとっていただいたことはよかった。
- 適切であったと思います。理論研究を基にして、見通しの良い計画&進め方になりました。ブロック研での取組が、理論研究を基にした実践のよい場になっていたと思います。
- ▲ 高学年のブロック研究が、うまく進められず申し訳なかった。
- ▲ 部会内の話し合いの時間がなかなか取れずに、授業者に負担をかけてしまったことが多く、申し訳なかった。
- ▲ ブロック相互の研究内容の共有は、なかなか図れなかった。
- ▲ 研究の進め方もバックワードデザインで考えたらどうだろうか。何を課題にしてどのように取り組むかの見立てを明確にすると、ゴールに向かって具体の道筋が出てくると感じた。

～研究の計画・進め方について～

概ねこの進め方で良いという意見が多かった。

ブロックごとの研究内容は、研究授業を通してと最後の成果と課題を報告し合う時間設定しか入れられなかった。さらにどのような時に、どのような内容を共通理解できると良

いのか、具体的なご意見をいただけると、来年度の計画に反映できると思われる。

進め方については、ご指摘のとおり、バックワードデザインで考えていくことは大変有効であると思うので、来年度のスタート時には課題を共通理解し、そこに向かって行くように考えれば、先ほどの課題であった、今年度提示した視点を来年度どのように深めていくかという研究にもつながるのではないかと感じている。

#### 7 来年度の研究の中で、具体的にどのようなことに取り組んでいくべきか。

(外国語に関する内容、授業改善に関する内容、また対象教科や教科・授業外の取組、などもあれば、企画・案・要望・希望をお書きください。)

- 外国語の研究大会ともからめて、今年度の内容の継続
  - ・教材の充実・授業実践
- 1年で終わりにするのではなく、今年度の成果・課題の上に立って引き続き「外国語に関する内容」にするのがよいと思うが、より積極的に授業や研究に取り組めるようにするためには、全員が行っている教科や授業改善についての研究もよいと思う。でもやっぱり外国語かな。
- 来年度は、せつかくの機会なので子どもたちが英語に親しめるような活動を積極的に取り入れていくとよいと思う。英語のシャワーで、子どもたちみんなが英語に抵抗感なくなるところをめざしたい。
- 環境を作るということで、
  - お昼の放送で外国の歌を流す。
  - 英語に関する図書の紹介。
  - 外国語での読み聞かせ
  - 歌声で英語の歌を入れる
- 今年度の研究を生かして、来年度も続け、更に外国語の関する研究を深めていきたい。
- 今年度の研究を元に、来年度も引き続き外国語で良いと思います。
- 外国語活動は、児童にとっても教員にとっても今後最も必要とされる教科の一つなので、校内研を通して外国語活動の指導を高めていきたいと思います。
- 今年度はALTと一緒に授業をすることはありませんでした。実際、授業を行う際に、計画を立てたり、流れを見通したり、スムーズに流れにのって授業を行ったりすることに不安があります。型をつくり流れを作ったり、さらには場に応じてアレンジを加えたりできるくらい研修、研究を重ねたいと思います。
- 本年度の研究を通して、国語科との共通点が明確になった。国語科で言われている【5つの言語意識】目的意識・相手意識・方法意識・場面状況意識・評価意識を念頭に置くと、外国語活動でどんな言語活動をするべきなのかがわかる。
- 本校で模範授業をしてもらい、見る視点を絞って参考にする。よい授業のまね(模倣)をするようなことから、職員の実践力をつけていくのはどうか。
- やはり今年度の内容を来年度に生かしていくしかないと思う。「やってみて、すこし慣れた」ところで、ゲームや練習のたくさんの方を知ったり、外国語活動と外国語科の違いを理論研究したりしていき、自己研鑽の年にしていきたいと思う。



～来年度に向けて～

来年度は、引き続き外国語教育の研究を進めるという意見で全員一致した。その中でも具体的に、環境づくり、研究の進め方、より魅力的な活動方法等を求める声上がり、来年度に向けて更に充実した研究になるのではないかと期待できる。視覚的にも聴覚的にも英語に触れる環境、機会をどんどん増やし、児童が自然に慣れ親しめるようにしていきたい。今年度の反省を踏まえ、先生方のご意見を取り入れた研究となるよう、来年度につなげていく。

## 8 その他

- 1年間研究の推進おつかれさまでした。
- 授業のパターンを示していただけたので、今後どのように外国語や外国語活動の授業を行っていけばよいか分かった。
- FETの先生との連携の仕方がわかったことも良かった。
- 研究という大変な分掌、一年間本当にお疲れ様でした。
- 外国語という観点で、授業づくりがメインとなる。そのときに、必ず一人一実践が必要ではないかと考える。授業参観研修を含めて、かかわりをもっていけるような取組が考えられたら良いと思う。
- 1年間の研究をリードしていただき、ありがとうございます。自身の苦手意識克服のため、さらに学びたいと思います…。
- 研究主任として本当にお疲れ様でした。勉強になりました。
- 「戦後最大の改革」などと言われ、様々な課題がある中、外国語活動にしばって研究したことには大変意義があったと思います。むずかしい舵取りを研究主任ありがとうございました。